



かさいりゅう 火砕流ってどういうものなの

こうおん かざん かざんばい かざん いっき なが くだ
高温の火山ガス・火山灰・火山れきなどが、一気に流れ下ってくるもの

かざん かつどう はじ かざん かざん かざんばい かざん かざん こうちゅう あげ
火山の活動が始まると、火山は、火山ガスや火山灰・火山れきなどを、空中にふき上げ
たり、溶岩を流し出したりします。このとき、流れ出たばかりの、溶岩のかたまりや、火山灰・
かさいりゅう なが だ なが で ようがん かざんばい
火山れきなどに、火山ガスが混ざり、山のしゃめんを、一気に流れ下るものを、火砕流とい
ます。

はや じそく いじょう かさいりゅう ひじょう こうおん
その速さは、時速100キロメートル以上にもなります。それに、火砕流は非常に高温な
ので、流れにのみこまれたものは、やきつくされてしまいます。

かさいりゅう おお ひがい で
火砕流で大きな被害が出る

れきしじょう もっと かざんばい ねんにし しょう かせいりゅう
歴史上、最もおそろしい火砕流は、1902年西インド諸島の、モンプレー火山で、起こ
ったものです。この火砕流は、時速100キロメートル以上の速さで、ふもとの町、サン・
ピエール市をおそいました。町は全めつしてしまい、2万8000人以上が亡くなりました。

ねん あさまやま ふんか お かせいりゅう かんばらむら
日本では、1783年に、浅間山の噴火のときに起こった、火砕流は、ふもとの鎌原村を
おそい、1151人が亡くなりました。

ねん はじ うんぜんだけ ふげんだけ かせいりゅう なんかい
1990年から始まった、雲仙岳(普賢岳)では、ものすごい火砕流が、何回もふもとの
まちをおそいました。1991年6月に起こった火砕流で、警かいにあたっていた警察官や、
しょうぼうかんけい ひと な ゆくえ 不明のひとが44人いました。

(監修・国司 真)

